



NO.1035

2015・9・13

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三三・四四五八
F 四三三・四四五七



松浦奮戦メモ

9月議会が始まりましたが、今回一般質問ではマイナンバー制度に

流水

堂々と胸をはっていろいろと採決の日程が取りざたされていますが、憲法違反の法案は廃案にするしかありません。

戦争法案の請願・陳情が採択ならず！

7日に総務・経済委員会、平和憲法を守る網走の会から提出されていた「平和安全法制整備法案」及び「国際平和支援法案」について今国会で廃案とすることを求める請願（紹介議員 平賀貴幸氏）と、他団体から2本の陳情、継続審査となっていた陳情など一括して審査しました。

結政の会の川原田委員は、6月議会で全会一致で「慎重審議を求める」意見書が採択になったが、政府は強行採決をした。今国会での廃案を求めるのは当然と採択を主張。共産党の松浦委員は、若者をはじめお年寄りまで反対の声が上がっていると採択を求めました。

しかし、志誠会の工藤委員は、「警察予備隊、60年安保を経て今の日本の繁栄がある。次善の策として容認する。」公明党の佐々木委員は、「慎重審議ということでは国民の理解を得ておらず重要だが、廃案ということであれば論点が違うので同意できない」と主張しました。

その後の議員間討論で「多くの国民の廃案にすべきとの声が上がっている、どうなのか」との松浦議員の質問に佐々木議員は「それはこの法案についての理解が浅いからだ」と、反対運動に対する暴言ともいえるべき発言をしました。

松浦議員は「その発言をそっくりお返しする」と反論しました。しかし、意見が一致せず継続審査となりました。

立崎市議が農業委員を辞職！

改選後の6月議会で、議会推薦の農業委員として選出されていた立崎議員が、地元の神社へ50万円（うち47万円が議員になってから寄付）をしていた問題がありました。6月議会後に、数回にわたって会派代表者会議が行われ立崎議員の責任を問われ、9月議会で農業委員を辞職することになりました。

共産党の松浦議員は、会派代表者会議でオブザーバーとして参加し、問題が明らかになった段階から「神社への寄付行為は重大な問題であり議員辞職すべき」と主張してきました。しかし、結政の会、志誠会、公明クラブの会派が、農業委員を辞職することで合意したため、このような結論になりました。

日本共産党の松浦議員は、農業委員の辞職だけでは、「お茶を濁すことにもならない」と厳しく批判しています。尚、後任には、栗田政男氏が選出されました。

ついで取り上げました。その理由は、10月5日から全市民に「個人番号」が通知され、来年1月から税の手続きや年金、医療保険、雇用保険などの社会保障の手続きでマイナンバーの利用が開始されます。しかし、世論調査を見ても多くの国民はマイナンバー制度とは、どんな内容で、どんな目的で実施されるのか、よくわからないというのが現状です。そこに、「個人番号」が送られてきて、大切な保管して下さいと言っても、紛失することが十分考えられます。一番不安なのは、年金機構の情報流出があったように、個人の情報が守られるのかと専門家も指摘しています。特に、この時期は詐欺集団が横行するとの声もありますので、注意しましょう。

「ストップ！戦争法案網走の会」は抗議行動を呼びかけています

めちゃくちゃだ！
何が何でも強行するつもりだ！



私にも
言わせて！

9月13日（日）午前11時から30分間
駒場ベーシック店前（歩道）に集合します
※抗議のリレートークをします

守れ、憲法を壊すな、子どもを守れ、戦争するな……と「本気の怒り」に満ちたコールが続いています。立て続けに防衛省の内部文書が日本共産党に届くほど、政府内の矛盾も客観的には深まっています。野党もいろんな野党がありますが、強引な採決には反対する点で一致しています。まだまだ法案の行方はわかりません。▼これほど反対行動が広がるとは安倍首相にとつて誤算だったかもしれせん。そうでなければ四月の訪米時に、軽々しく「夏までに成立」とは口にできないはず。結局、衆議院では強行採決という手段を取り、戦後最長となる会期延長をせざるを得なくなり、それでも綱渡りの採決日程を模索している現状は、反対世論に押し込まれた安倍政権のみじめな姿を証明しているのではないのでしょうか。▼先日、北海道弁護士会連合会主催の集会・パレードに参加しました。おや、目の前にいるのは娘と同じ学童保育に行っている女の子！ふだんと違う私の姿を恥ずかしそうに見つめてましたが、しっかりと握手。見ると集会には、多くの子どもたちの姿がありました。▼説明にもならない説明をくり返しておきながら、政府・与党は本当に胸を張って採決できるのでしょうか。私たちは堂々と「戦争法案反対」だと、胸を張って子どもたちの未来を守りましょう。

日本共産党衆議院議員
畠山和也